

授業科目	政治史演習
演習題目	国家主義と排外主義の政治史
担当教員	熊野直樹
授業の目的	<p>本演習の目的は、以下の4つです。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>① 政治史関係の学術論文の読み方を習得する。</li> <li>② 政治史を解釈する際に必要な用語や概念を十分に理解し把握する。</li> <li>③ 自分の考えを的確にかつ論理的に相手に伝えることができるようになる。</li> <li>④ ゼミ論文の執筆を通じて、調査能力と論文作成能力を育成・発展させる。</li> </ol> <p>*本演習では、特に④のゼミ論文の作成に重点を置いています。</p>
履修条件	国家主義と排外主義の政治史というテーマについて、一年間議論していけるほどの関心と熱意のある方。
教科書・参考書	<p><b>【教科書】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・橋川文三編『超国家主義』筑摩書房、1964年。</li> <li>・丸山眞男『増補版 現代政治の思想と行動』未来社、1964年。</li> <li>・ベンジャミン・カーター・ヘット著、寺西のぶ子訳『ドイツ人はなぜヒトラーを選んだのか』亜紀書房、2020年。</li> <li>・細谷雄一・板橋拓己編『民主主義は甦るのか?』慶應義塾大学出版会、2024年。</li> <li>・井上弘貴『アメリカの新右翼』新潮社、2025年。</li> <li>・鳥谷昌幸『となりの陰謀論』講談社、2025年。</li> </ul> <p><b>【参考書】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ジェーン・キャプラン著（藤井美佐子訳／熊野直樹監修）『ナチ・ドイツ』すばる舎、2023年。</li> <li>・石田勇治『ヒトラーとナチ・ドイツ』講談社、2015年。</li> </ul>
授業の計画・内容	<p>最近、欧米においても日本においても国家主義（ナショナリズム）や排外主義を主張する勢力が台頭しており、「ファシズム」の再来や自由民主主義体制の衰退ないしは危機が叫ばれています。とりわけドイツではナチスのイデオロギーと親和性のある「ドイツのための選択肢」（AfD）が台頭しており、ドイツ東部では4割近い支持率を得ています。ナショナリズムへの回帰や排外主義については、最近の日本でも同様の現象が見られ、強い関心が向けられています。</p> <p>そこで本演習では、国家主義や排外主義についての理論や事例（過去と現在）を検討することによって、現在の自由民主主義体制の行方について、皆さんと議論していきます。</p> <p>毎回、報告者1名とコメンテーター1名を定めて、報告者にはレジュメを作成し、発表してもらいます。報告者が提起した疑問点・論点に対して、コメンテーターに論評してもらいます。それらを中心に参加者全員が議論していきます。</p>
成績評価の方法	平素とゼミ論文による成績評価となります。そのためゼミ論文を作成

してもらいます。後学期には2回ほどゼミ論文構想発表会を予定しています。学期末にはゼミ合宿（2024年度：高千穂）でゼミ論文合評会を行います（『2024年度熊野政治史演習ゼミ論文集』第24号参照）。なお、夏休みに3年生には、E.H.カーの『歴史とは何か』の書評を課します。